

と提示の仕方は、効果的であったかを考察する。

- ② ワークシートに書かれた内容を座席表に記入し、本時のねらいがどのくらい達成されたかを数値化し、把握する。
- ③ ワークシートに書かれた内容と学習後の感想から、本研究の「語句指導表」をもとにした読み取りの指導が効果的であったかを考察する。

(2) 授業の概要と考察

《 本時の話し合いの様子 》

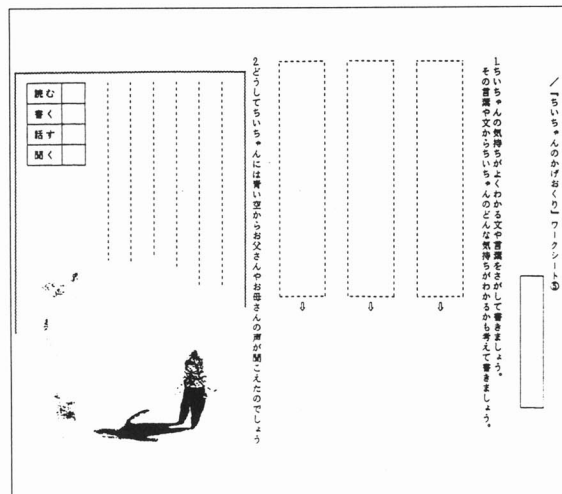
- T: 他にちいちゃんの様子が書いてある言葉はないかな
 C: ふらふらする足をふみしめて
 T: どんな気持ちかな
 C: お母さん、お父さんの声が聞こえたので、やってみればあえるかも知れない
 C: ほしいうを少ししか食べていないから、足をふみしめた
 T: 「ふむ」と「ふみしめて」はちがうかな
 C: 足に力をいっぱいいれて
 C: 最後の力を出して
 C: いっしょうけんめい立った
 C: 書いてはいないんだけど、お父さん、お母さんの声が聞こえたから足をふみしめた
 T: どうして、ちいちゃんにはお父さんの声が聞こえたのかな
 C: お父さんやお母さんへの気持ちがいっぱいあって、ちいちゃんにしか聞こえなかった
 C: 3の場面で、「お母ちゃん、お兄ちゃんはきつと帰ってくるよ」と信じていたから、お父さんに伝わって
 C: ちいちゃんの心の中に3人への気持ちがいっぱいあって神様からのおくりもの
 C: 4人でかげおくりをした記念写真を思い出して、心の中で聞こえている
 C: 前におはかまいりでお花とか水とかあげたから、お返しみたいに
- 田各
- T: どうしてかげぼうしは1つなのに白いかげが4つなのかな
 C: たぶん、はじめの感想でちいちゃんは天国にいったのかなといったから、お父さんが迎えにきた
 C: ちいちゃん一人ぼっちにさせてかわいそうだから、最後に4人でかげおくりをさせたかった
 C: 最後に1回だけかげおくりをして思い出にしたかった
 T: ちいちゃんの家族を思う気持ちがきつと伝わったんだね

① ワークシートの活用について

授業のねらいに合わせて、ワークシートの内容と提示の仕方を変えたことにより、書かれた内容に深まりが見られた。また、学習後の感想からも、「ワークシートに書くのが楽しかった」という声が多く聞かれた。特に、発表があまり得意でない児童にとって、書くことにより自分の読みを表現し、それを教師に認めてもらえるということは大きな喜びであったようだ。しか

し、書きやすいワークシートの大きさや場面の状況を押さえた上で提示するなど、より児童の実態に応じた活用の仕方を考慮していく必要があった。

《 本時で使用したワークシート 》



② 座席表の活用について

児童のワークシートの内容を座席表に記入し、本時のねらいの達成度をみたり、一人一人どのような思いや考えを抱いたかをとらえたりして、指導を振り返りながら学習を進めてきた。座席表をもとにした課題の到達度は、学習を進めるに従い向上した。特に、深い読みをした児童の紹介を次時で行ったり、読みの浅い児童への個別指導をしたりして、次の授業への見通しがもてたという点がとても有効であった。

③ 「語句指導表」の作成について

読み取りの学習の前に、児童の本単元の語句の理解度を調査した。その結果、戦争に関する語句の意味のわからない児童が多かった。そこで、本単元に入る前に作成した「語句指導表」を見直し、これらの語句を難語句として位置付け、作品の背景である戦争の状況を3年生の児童にも理解できるように、具体的な指導を展開した。特に「空しゅうけいほう」や「ほしいう」